

2016年12月9日(金)in ロフォス

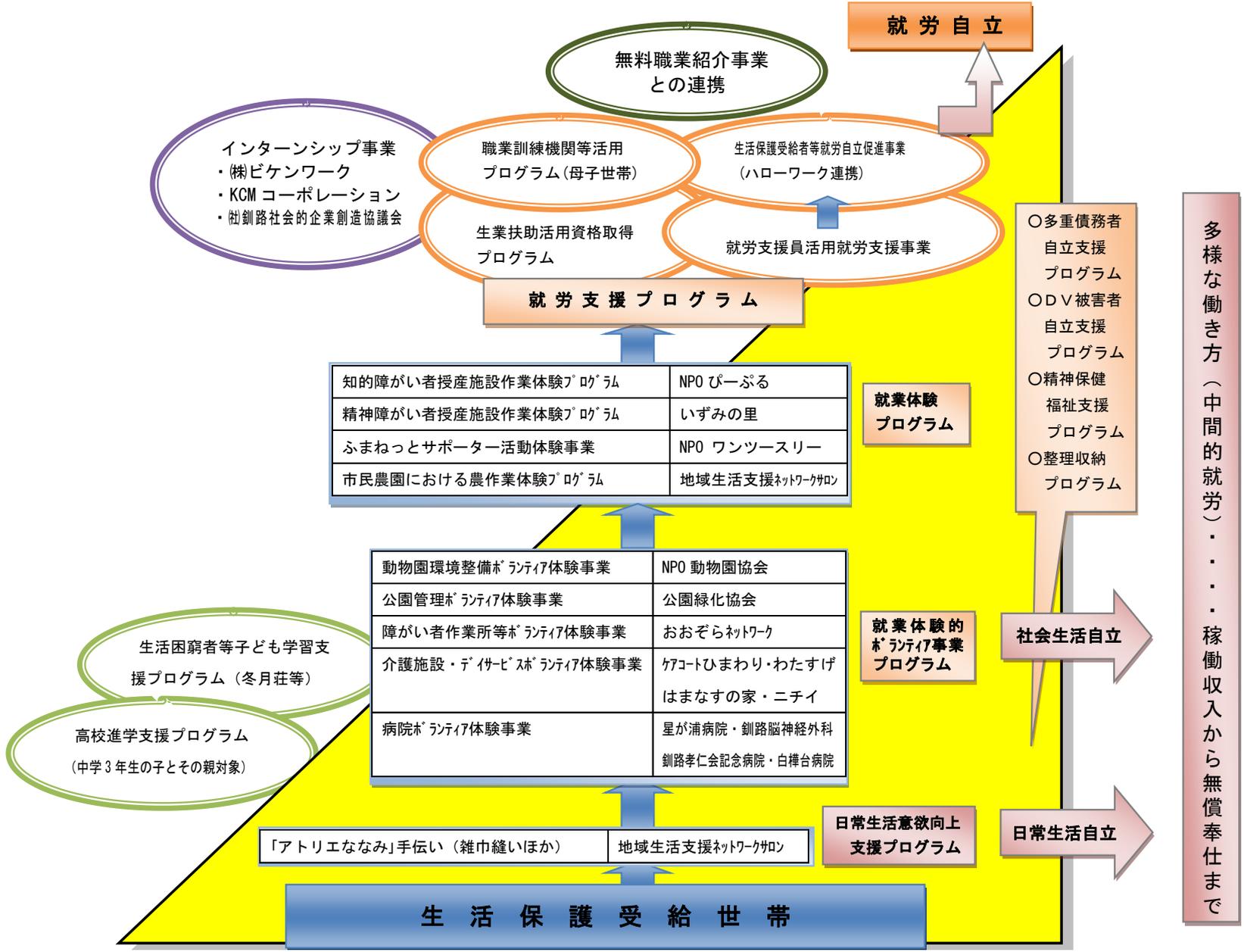
平成28年度自立相談支援事業従事者養成研修 ～後期就労支援員養成研修～

【講義と演習⑨】就労支援と地域づくり

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表
北海道釧路総合振興局管内生活相談支援センター長
釧路市生活相談支援センター 暮らしごと センター長

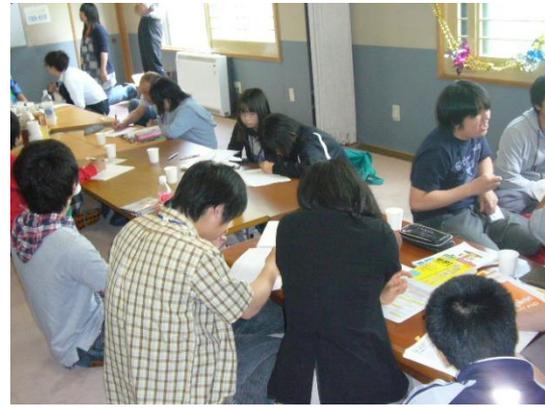
櫛部 武俊

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況 (H28年4月現在)





自立支援プログラムの様子



【支援】
ケースワーカー・
民生委員・パーソ
ナルサポーター
など

【支援】
地域・事業所・
関係機関
など

社会生活自立



かけがえのない私と
居場所づくり

就労自立



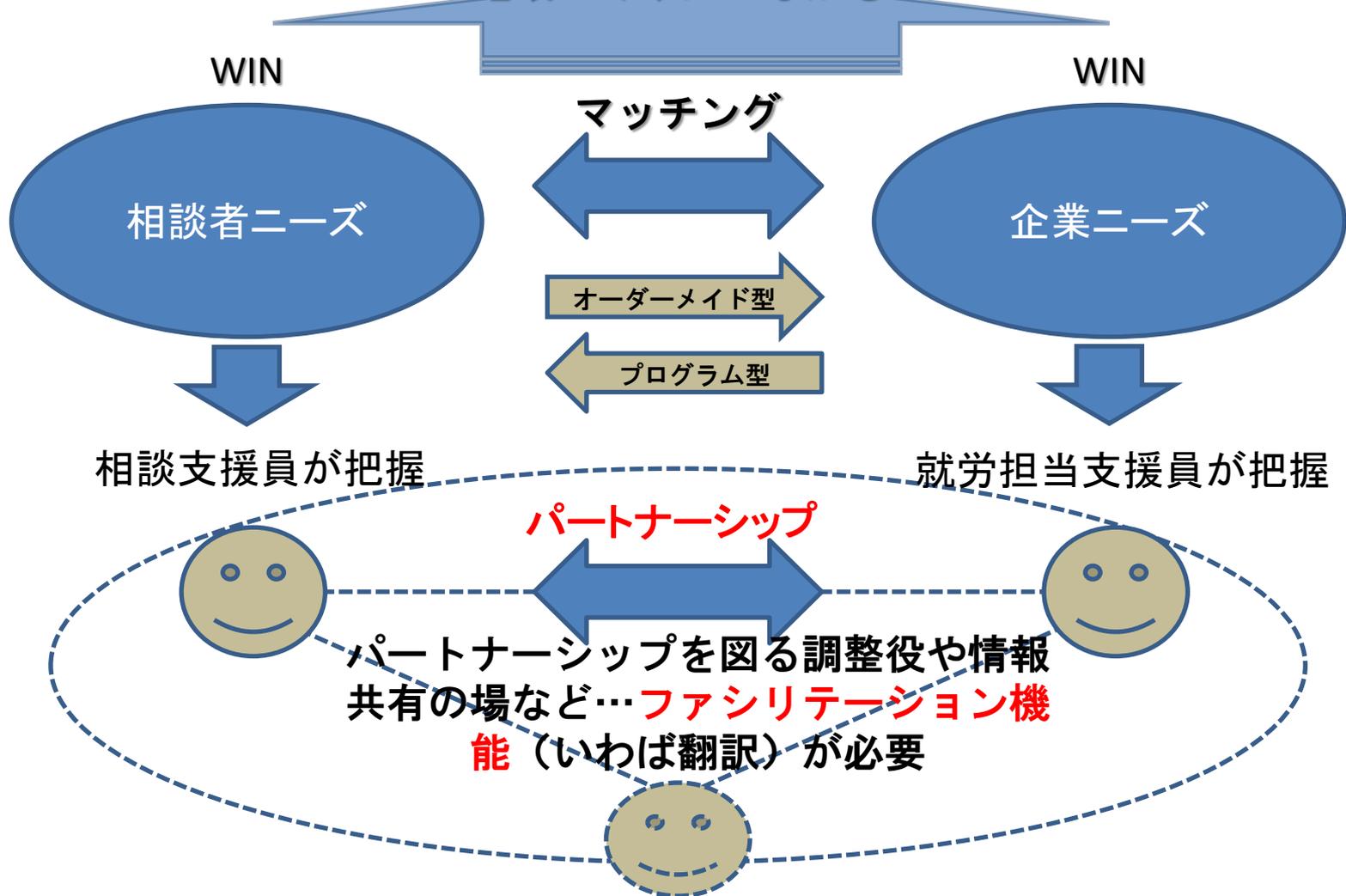
日常生活自立



新しいケアの試み

求められる就労支援とは

就労実績や就労準備支援の場が生まれ、
地域づくりにつながる



就労準備支援における段階的な就労支援

ステージ 1

- ・ **当協議会内における内職作業**
- ・ 職員に見守られた中で成果報酬型の内職作業に参加し、日常生活自立・社会生活自立を目指す。

ステージ 2

- ・ **協力企業にて見学・体験**
- ・ 日常生活自立・社会生活自立が図れてもいきなり働き始めるのではなく、まずは実際の仕事を見学し、その上で体験を行う。体験期間は その都度設定を行う。

ステージ 3

- ・ **短時間就労**
- ・ 体験の結果、双方が希望すれば雇用契約を結び働き始めるが、ここでもいきなりフルタイムではなく、半日勤務、あるいは3日前後の勤務からスタートする。

ステージ 4

- ・ **長時間就労（一般就労）**
- ・ 短時間労働を経て双方の確認が取れば、長時間勤務（フルタイム）に切り替え、就労自立を果たす。

定着支援

退職支援



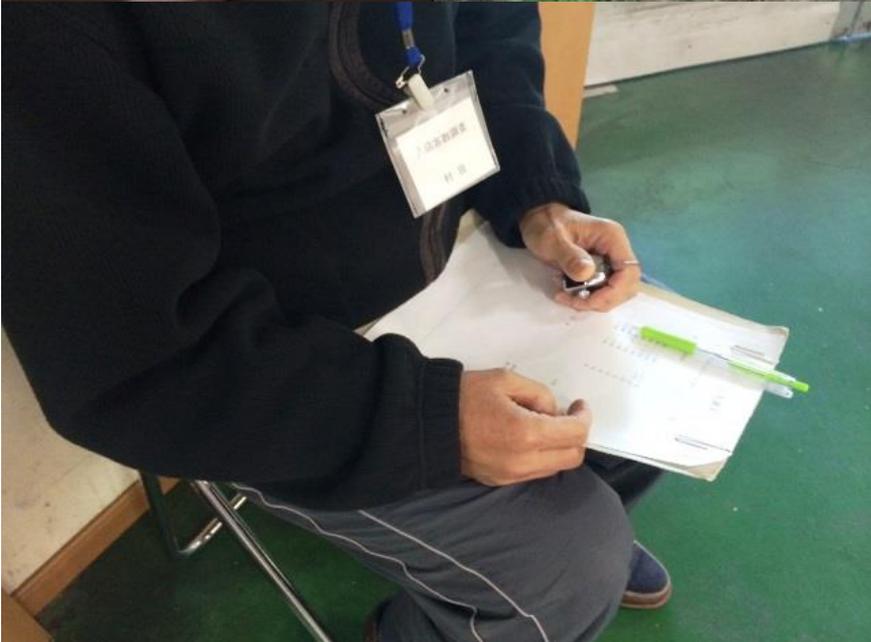
高齢者の運動用具製作依頼 生活保護受給者の自立支援

「鶴の羽」を手掛かりに、高齢者の運動用具製作依頼を受け、生活保護受給者の自立支援に取り組んでいます。...

道内で新たな取り組み

岡山県内各地に広がる「鶴の羽」の取り組み。道内各地で新たな取り組みが行われ、高齢者の運動用具製作依頼を受け、生活保護受給者の自立支援に取り組んでいます。...







最近の企画書①: 協力企業(養護老人ホーム)が作成した段階的な就労支援の企画書

生活困窮者自立支援制度における釧路市生活相談支援センターと長生園の取り組み

釧路市では、生活困窮者自立支援法（平成27年4月施行）に基づき、様々な理由により生活に困っている方々を対象として、誰でも相談できる相談支援窓口を設置し、対象となる方々の自立（経済的自立、日常生活自立、社会生活自立）を図るために状況に応じた支援をしています。これが釧路市生活相談支援センター「くらしごと」です。

このたび、長生園とくらしごととの協働で、生活困窮者の自立支援のため、長生園の施設業務からの「仕事の切り出し」によって、対象の方々の就労訓練事業等を実施していくこととなりました。

具体的には、職員が行っている業務の内、「清掃・消毒」の部分をごの事業における対象の方々が就労訓練として担って行くこととなります。

1. 目的

働きたいのに働けない方、あるいは働かなければならぬのに就労意欲に乏しい方など、様々な理由で働きづらい状態にある方を対象に、切り出された業務を活用し、多様な働き方や段階的な就労を作り出し、結び付けていくことです。また、この取り組みは、対象者の方々の自立支援だけを目的としたものではありません。最近の施設職員の人材不足は、長生園に限ったことではありません。今後を考えていった時、この人材不足解消のカギとなるのが、人材の育成にあると考えます。就労訓練等を通して、業務とマッチングした人材が育成できれば、直接雇用にもつながるとも考えています。また、社会福祉法人の責務としてある「社会貢献」の一環でもあります。

2. 実施機関

一般社団法人釧路社会的企業創造協議会・相談支援センターくらしごと

3. 「仕事の切り出し」

職員が行っている業務の内専門的な技術を伴わない、清掃・消毒等に係わる部分を次のとおり作業内容・作業時間とセットで切り出す。

工程	業務時間	業務場所	業務内容
1	8:30~9:30	1階食堂	食堂内の清掃の消毒
2	9:30~10:30	管理棟・旧館1階・はなれ 2階	手すり・ドアノブ・ソファ等 の消毒

3	10:30~12:00	新館1階・旧館2階・新館2階・新館3階	手すり・ドアノブ・ソファ等 の消毒
計4時間			

4. 就労訓練プログラムとステップ

就労準備支援計画書の作成により、「生活自立」「社会自立」「就労自立」の短期・長期目標が設定され、各ステップ終了時に面談とモニタリングを実施する。

段階	内容	書面の取り交わし	参加期限（原則）
ステップ1	面談・見学・体験（くらしごと職員同行）	支援計画書（くらしごと）	3日
ステップ2	就労実習（切り出された業務）	就労準備支援事業による就労実習確認書（長生園）	3ヶ月 ※就労訓練の可能性
ステップ3	アルバイト（法人内）	雇用契約（長生園）	なし
ステップ4	職員（法人内）		なし

5. 人材確保における課題と取り組み

① 人材育成

・各職種において求人しても応募がない状況が続いています。今後もハローワーク、広告等で広く求人していきませんが、それだけに頼らず、自分たちで人材の発掘・育成をしていく必要があります。

② 職員の負担となる業務の改善

・各職種の業務において、職員の負担になる部分を今回のように切り分けし、それぞれの役割を見直すことで、業務の負担を軽減していく必要があります。

③ 地域にむけた長生園のアピール

・『長生園で働いてみたい』と思ってもらえるように、自分たちの職場の魅力を外部に対してしっかりアピールしていく必要があります。

これらのことを、長生園の職員として、皆さんにも協力してもらいたいと思っています。

『一緒に働く仲間と、職場環境を、自分たちで創る！』

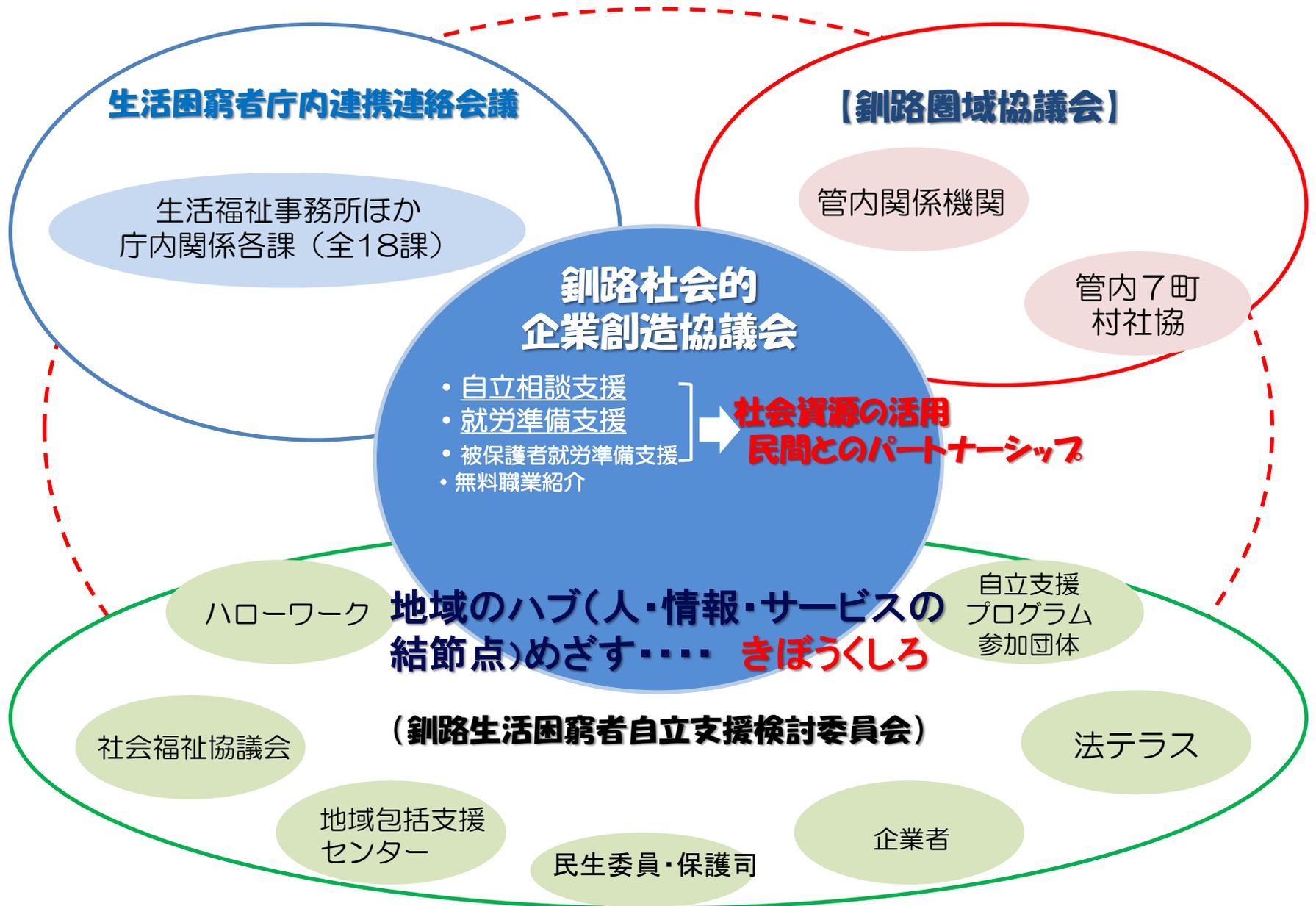
こんな考え方が必要な時代なんだと感じます。



60才以上が仕事に就いた内容(30名)

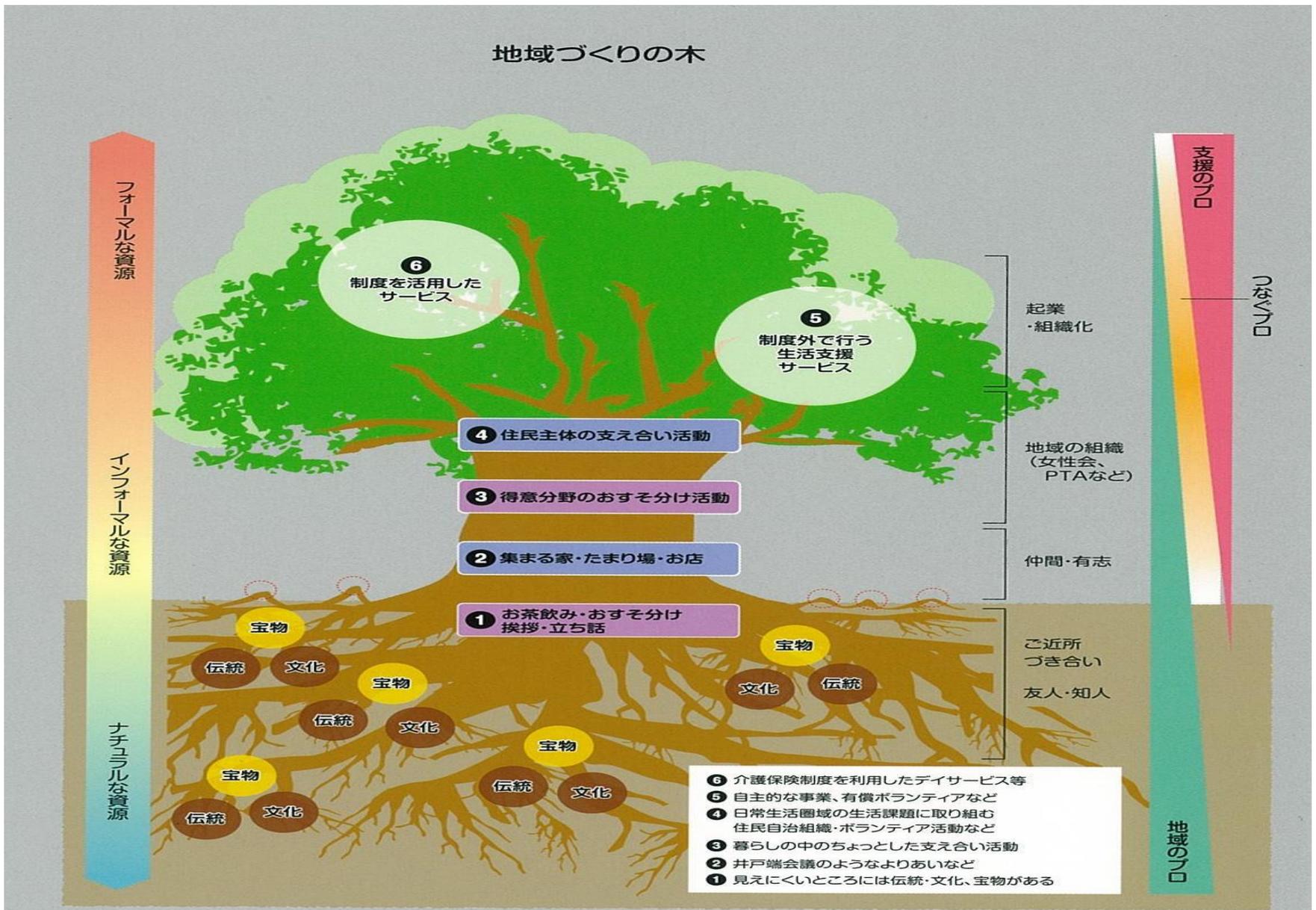
平成27年度下半期 60歳以上の就職者一覧 ※H27年10～H28年3月度、兼業先決定者・アルバイトも含む				平成28年度上半期 60歳以上の就職者一覧 ※H28年4～H28年9月度、兼業先決定者・アルバイトも含む			
氏名	性別	年齢	仕事内容等	氏名	性別	年齢	備考
1	男	62	(うつ)市場来店調査アルバイト	1	女	66	介護施設勤務・夜間清掃パート兼業
2	女	61	市場来店調査アルバイト	2	男	66	農園にて季節雇用
3	女	77	(膝・股関節手術)市場来店調査アルバイト	3	男	62	市場調査へ
4	男	77	(身体障害:足)市場来店調査アルバイト・ 昆布袋詰め内職開始	4	男	60	弁当製造業務就職
5	女	62	有料老人ホーム清掃パート	5	男	66	夫婦で市場調査へ
6	男	65	介護事業所の警備員	6	女	77	市場調査へ
7	男	70	介護事業所の送迎運転手パート、管理ホ イラー スーパー清掃	7	女	73	ホテルの清掃勤務
8	男	60	弁当宅配、介護事業所運転手、引越しア ルバイト	8	女	76	入店客調査参加
9	女	61	事務所清掃パート	9	女	66	入店客調査参加
10	男	75	鹿撃ちガイド(冬季のみ)	10	男	67	水産加工場にて就労再開
11	男	60	警備	11	女	66	市場入店客調査参加
12	女	66	週3日のパート	12	男	66	大工・自営。兼業希望。6月～知人の 手伝い仕事開始
13	男	63	警備	13	男	62	市場入店客調査参加
14	男	63	塗装作業	14	男	61	水産加工場にて就労開始
平成27年度全世代の就労人数は、142名				15	男	64	8/5.6.18.20祭りのテント設営&撤去8/19 産廃分別作業見学&ゴミ拾い、9/12～ 水産加工(派遣)
				16	女	61	水産加工現場9/7見学・9/8・9・12体 験・実習・9/14・15写真館封詰め作業 参加

パートナーシップ・・・人と人のネットワーク 顔の見える関係





地域づくりの木



・ CLC 生活支援コーディネーター養成テキストから抜粋

地域で支え合う仕組み模索

子ども、若者から高齢者まで地域を支えあつて暮らす仕組みづくりの模索で、朝路市美原地域では「かがやき食堂」を拠点に、「みはら・かがやき食堂」が14日、スタートした。地域食卓、体幹づくりの体刀づくり、

り、笑顔支援から始め、さまざまな人と繋がっていく中で、地域の困りごとを問題を良い方向に導く方法を模索する。暮らしやすい地域を住民自らがつくり出していくと目指している。

テーマにした地域貢献」を模索していったことから、田舎の思いがますます重なる。これには仕事、介護、福祉など、今この地域社会も抱えている問題に取り組む仕組み、社会的企業創造協議会が加わった。

かがやき食堂は、子育てがひと段落した世代の母親グループ、絆路社会的企業創造協議会、朝路市社会福祉協議会、

かがやき指針管理者の美原の4人でつくる実行委員会が運営する。実行委員長は、ありんネットワークの松田恵美子さん。

同ネットワークは美原一輪、3輪の指定管理者となった美原車クラブの母親の日の会へ、書(三十歳月社長)が「食を地域のことものために何かしたい」とバトン「とも食堂」の運営を考えていた。ちょうど、今年4月から市内コア



②「楽しさ」を共有しながらやっていきたいと話す松田会長(左)子どものグループや親子連れでにぎわう食堂

今年度は月一回の開催を計画。回を重ねるごとにいろいろなテーマ(学習支援、住民からの要望、困りごと相談など)が発生するところが予想されるが、松田さんは「いろいろなジャンルのプロが控えているので心強い。一つずつ丁寧に運営していきたい」、食堂運営にも反映していきたい。

「みはら・かがやき食堂」スタート

と語る
食堂
地域地
がある
四日山
の夕
こい飯
味わっ
しい食
を分か
初回
ープ
た。利
人の
ちのこ
な美原
は「食
飯はお
った。
事はく
と種
かが
3000
田で
回は
2時
会、



子どもたちの学習応援

みはら・かがやき食堂

食と体力づくり3本柱出そろろう

子どもから高齢者まで誰でも利用できる「みはら・かがやき食堂」が9日、銚路市愛国のコアかがやきで開かれた。食堂としては2回目、初めて銚路公立大生の協力で、集まった子どもたちのための学習応援が行われ、体力づくりの「輪車講習」とともに、食、体力づくり、学習の3本柱がそろった。

(坂めぐみ)



食前、食後に小学生でにぎわった学習応援の会場

地域の人材や活動を生かす「ブヤコアかがやき」の指定管理し、美原地域の母親グループ、理考美智など4者による実

行委員会が主催。今回は銚路市東部漁協が「銚路昆布」、銚路フィッシュが「ホエーサー」、おんべつ学園の大きな木がパンなどを無償提供。今回の食のテーマは地元産の昆布とした。食堂では銚路昆布の漁から製品になるまでを紹介。ナガコンプの実物を展示するなど、食育にも力を入れている。

献立は昆布水で炊いたご飯、手作り昆布とごまのつくた煮、おでん風スープ、塩サバホエー仕込みの焼き魚、フルーツポンチなど。

食堂は親子連れや子どもグループでにぎわい、「昆布はふだん、あまり食べない」という子どもたちもみんなで囲む食卓につられて、「おいしい」と昆布風味のご飯やスープに舌鼓を打った。

初めての試みとなった学習応援には、公立大で教職課程を履修する1年生5人が協力。最初は教材などは用意せず、ゲーム感覚で漢

字や九九などに取り組んだ。その一人、小原瑞斗さんは「子どもは好き。自分も緊張してきこみます。」

スポーツも好きなので、生かすことができたいなと思う」と、次々とやって来る初対面の子ともたち相手に奮闘した。

かがやき食堂は毎月第2土曜日開催が基本だが、8月は21日の日曜日に行う。

夏休みの自由研究に30日ものづくり教室

道立銚路高等技術専門学校(高田一志学院長)は、夏休みの自由研究にも役立つとして、30日午前9時15分から同学院で実施する「小学生ものづくり教室」の受講者を募集している。

教室は「光るライティンクサイン」(電気工学科)、「ほく・わたしのかわいいイス」(建築技術科)、「手づくり電気自動車」の3種類が行われ、対象は銚路近郊の小学生(4年生以下は保護者同伴)。定員は各料10人(先着順)。申し込みは22日まで。問い合わせは0154(57)8011へ。

包括的な相談支援システム構築事業について

以下のような具体的な試みを通じて、協働による包括的支援体制を構築する。

